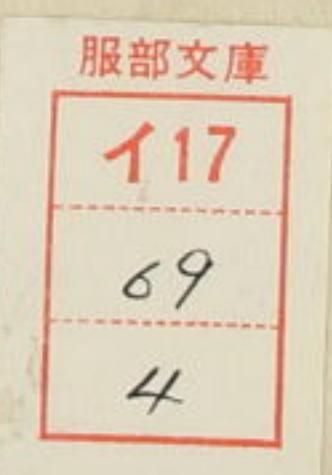




文會雜記

附錄

四  
止



A vertical ruler scale with major markings every 1 inch. The numbers are black, except for the value 80 which is red. An orange arrow points to the 1-inch mark below the 100-inch mark.



文會雜記附錄

備藩

湯元禎之祥識

男明善子誠輯

一 吾藩 神祖ヲ郊祀シ玉フハ 列公ノ時 台廟ノ賜ナリ  
神祖ノ神輿ハ善ツクシ美ツクセリ吾 大東ニ日光山ノ神輿ト  
吾藩ノ神輿ト只ニツコレヨリ美ナルハナシト世ニ云ナリ禎カ大父  
ノ遺筐中ニ神輿ヲ造ラレタル時ノ目録アリ神輿及旌旗戈矛  
貌ト合テ銀拾七貫目ノ料ナリ詳ニ其事ヲ記セリ禎カ四  
世ノ祖其時 神祖廟ヲ經營セル總管タル故ナリ今テヲ  
以テ見レバ三百貫目ノ銀ニ非ハ造ラルヘカラスト云々人因テ想フ往  
古物價ノ賤シキヲラシルヘシ 神祖ノ廟ヲ造ラレシハ正保元年ノ

一ナリ 繁祀ハ正保三年丙戌ニ始レリ。今ヲ去ル一百年ナリ又  
烈公ヲ因幡ヨリ備前ニ封シ玉フ。ハ寛永年中ナリ。其時人ニ  
ハ因幡ニテ米三苞ヲ銀二十錢ニ糶シキ。備前ニテハ二十錢目ニ  
糶ト云ツタヘリ。又室町日記ヲ閲スルニ。天文年中ノナル采一石  
ヲ六錢目三分ニ賣タル。ト見エタリ。又其時モメシ近一錢目六分  
シタル由見エタリコレ。瓊細ノイ成トモ治道ニ志アラニ人ノ時價ノ貴  
賤ヲ知ラスハ其世ノ有サ。知レ難カルヘシ。米價ノ貴賤ハ。禎別ニ考アリ  
一列公宗廟ヲ建セサセ王ノ後平安ノ伶人未リテ舞樂ス此ヲ委ク  
森川助左門輯スル所ノ記ニ見エタリ。其記甚闕メ人ニ出サ  
ト人ノ詔リ。

一或人ノ云シハ。今江戸ニ元三大師ノ畫像ヲオシタルニテ思ヒ出セリ。芭

蕉トイヘル俳偕ノ男ノ角大師井手ノカワツノヒホシ哉滑稽ノ  
中ニ少シ雅ナル意アリ。

一中華ニテ古ヘ婦人ノ文キアリシ。曹大家班婕妤ナトサノミ多カラ  
ス賢明ノ婦人ハ多シ。日本ニテ文キ之婦人赤染右門紫式部  
清少納言等枚举スヘカラス。但筆法ニ巧ナルヲ聞ス。吉藩ノ藥  
師院ノ榜ハ。寶鏡寺ノ内親王ノ書ナリ。醫王閣ノ三大字ナリ  
筆法ノ雄偉目ヲ驚セリ。禎諸所ノ榜ヲニルニ如斯美觀覓

ス。今ハ婦女ノ文古及スト思ヒシニ古ニモ超過セリ。

一禎俳諧ヲ好ベストイヘ丘蕉。蕉カ句トテ聞シ。陸奥国医源廷尉  
ノ古跡ヲ尋高館ニテ。夏草ヤ兵トモノ夢ノアト、云シハ感慨ハ  
少アルヤウナリ。

一青地三之黙ハ今ノ藤兵衛ノ父ニテ  
列公ノ射隊二十人アリ 烈公常ニ源左中將義貞ノ十六騎  
ノ黨ノ擬シタヘリ今ノ藤兵衛モ甚射ノ巧ナリ又三之黙ハ百  
発百中ナリ藤兵衛カ母ノ語リシト吾兒イカテカ射術ヲ字ニ得  
ヘキ父ニハ志ヲトレルモノナリ父十人ハ弓ツカヲ三寸カリニコシラヘ常ニ  
懷ニシテ人ニ詔ル時モキヲ袖ニイレテソレヲ把リテ終食ノ間モ忘レサリ  
ナトエシヲ聞タル人ノ予ニ詔リキ聖人ノ学ニ志ス者カクソアルヘキ  
ト或會ニ日蓮親鸞ノ物語アリシトキ予謂今ノ世ノ学者ノ儒者ノ  
カタハシヲ窓規テ佛法ヲ悲ミ日蓮親鸞ヲ譏ルハイカニソラ被矣  
ノ初ノ法ヲ説タル時獨立シテ海内ヲ對頭トセリシカモ少モ屈撓セ  
ス死刑ニ處セラレテモ懼ル、イロナシ豪傑ノ士ナラスヤ學者ノ

先王ノ道ヲ信メ守死善道モノ恐クハ彼二人ニ及カタカルヘシ  
一本藩中原ニ 烈公ノ遊覧ノ所アリ中原ハ旭川ノ側テリ夏  
日避暑ニ至リ玉フナヌシノ家ニテクタ幕弔トヲアケラカセモニ室  
リタヘハ幕ラウチ毛氈ヲ蒿菜ノ上ニシキテ行厨ヲ喫シタラ今ニカ  
所蒿菜數丈間ニ牛馬ヲ放カハス里氏コレヲ敬セリ召伯月  
棠ノ昔モカールニコソ  
小森可久字子徳俗新友之進篤實ノ士ナリ贊御ノ臣ニテ典籍ヲ司ル  
烈公ノ寫シ玉ヘル書大ナル長櫛ニ掉アリテ毎夏ニ虫子スルト  
テ詳ニ語リキ 烈公薨シタヒテ七十年ニ及ヘリ 御壯年ノ  
頃ハ書ノ刊本妙リン故且甚書法ヲ好セ玉ヒテ初ハ青蓮院尊  
純親王ノ弟子ト成セタヒ。後ニ法帖ヲ見テ摹セ玉フ予カ

先人賜ヒシ愷惄ノ君子民ノ父母トイエル八字楷正雄偉ニ殆  
中華ノ人モ及ヘカラス又王陽明ノ客坐ノ私稅石刻ヲ屏風ニシテ  
置せ玉ヒシニ其中三字缺タリシヲ補書シタモシヨシ今泮宮ニアリ  
イツレカ 公ノ御真蹟ニヤト尋求レトモ辨識セラレス  
後水尾帝ノ御讓位ハ関東ヨリトリカラヒタルニヤ殊ニ逆鱗ア  
リテ 御讓位ノ時御フスニ二首ノ御製ヲ書セ玉フ  
芦原ハもけらんちあけれ天ヲ下とも遁びるセマムハモ  
世の中ハよき國うき様ホリ芦原のかよのゆきすーのせや  
予カ幼時野先生ノ詔リタヘヒシ今既ニ三十年ニ及ヘリ猶玉ニ  
アリ噫

一烈公ノ時大鳥ノ海上ニ浮来リシヲ山中某鳥銃ニテ夙キリノ羽ラ

ウチキリニカハ飛翔スルアタハスツヒニツレ來リシヲ野殿邑ノ沼ニ放ハ  
キ一丈七尺余モ有ラン家鶩ノカタチニ似タル物ニ色ハウス子ツミ色ニ  
テム子大ナル囊アリ魚鼈竈クラヒタルヲノアタリ見タルト岩田翁  
詔ラレシ也是ヲ世ニハ大ナシカモノトイリ予因テ謂キ爰居ナルヘシ  
其時知礼ノ君子ナカリセハ魯ノ東門ニ樂ヲ以テ饗食スルアリ矣  
ニト云タリキ後ニ詩経名物辨解ヲ見ルニ秋鶩ノ條下ニ昔年備  
前岡山ニ出タリコレ左傳ノ爰居ナリトシルセリ

一丙寅春二月二十日烏山ニ遊覧ス烏山ノ麓即平家物語ニ  
見ヘタル篠カ瀨リ也今ハサガセノ堤トイヘリ烏山ノ北ヨリ流  
レ出ル川ニ長堤アリテ屈曲セリ平家物語ニ見ヘタル福輪寺  
ハ今ナシ左右ハ深田トイヘリ今モイカニモソカタニ烏山サノニ天山ニモ

アラス秦ノ山ヨリ西ニツキタル山ナリ頂ニハノ塚アリ土人相傳テ第  
ニ家瀬尾太郎兼安ノ塚ト云烈公ノ時塚ヲ發キテ棺ノ中  
ヨリ多クノ朱砂ヲトリ出スコレ賣毛者アリ即死刑ニ處セラシ  
モトノ如クニ埋セ玉フト云ナリ石碑ハナシ但平家物語ヲニハ板  
倉川ノ西ニテ討レタルト見エタハ板倉川ノ四十ランニハ備中國ソカシ  
イカニヤラサレニ道程ニ過ス事散メ後瀬尾カヨシミノ者トモ  
コノ山ニ埋ケルニヤ盛衰記ニ見エタル岩イノ山ニ弩ヲ設ケタルハ  
鳥山ノ前ナルイシ井ノトナルヘシイハイシノ訛ナリト覺ニ歸路來  
興七律一章ヲ賦崢嶸鳥山獄一登臨初地杳臺何ニ  
岐東長河風雨散休停殺氣薜蘿深断崖白叟鋌色  
千載青山烈士心偏憶孤忠莽兵地悲歌彈劍淚

襟

一源頭朝女ラ梶原景茂ニ玉リシトキ立月雨ニ沼ノ岩カキ水ユエテ  
イツレアヤメトヒキソワラト景茂カヨメル由沙石集ニ見エタリ  
ハ梶原景時カ季子ノ著セシ書ナレハ詐偽アルヘカラス然ニハ頼政  
賜タルト云コトハ附會ノ說ナルカ平家物語ニモセスサテハ太平記  
三載セタル高師直カ平家ノ會トイウト頤阿汰師ノ草庵集ノ中ニモ  
アリト覺ニ然ハ太平記ヲセタル兼好カ艶書ツクルハ実錄ニアラ  
サルヘシ師直ヲ惡ニテサヘニ附會セシニヤ兼好カタメニ嘲ヲ解  
ニ似タリ

一近江ノ湖ヲ鳩ノ海ト和歌ニヨメリ鳩ト云字字彙ニ見エスカイ

ツフリノイナリトイヘリサラハ鳲ノ字ノ訛成ヘシ。近年近江國圖ヲ刊行せんヲ見テ初テニホノ海トイウヲ惜レリ。湖ノ瀬多ノ所ハ鳥ノ頭似タリ。志賀ヨリ北ハ鳥ノ背ニ似タリ。北ノ方ハ鳥ノ尾ニ似タリ。東ノ方彦根ノカタハ鳥ノ腹ニ似タリ。昔ノ人ハヨク形容シタルニコソ琵琶湖ト詩ニモ用レトモニホノ海ト云ト詩入タルヲ見ス。鳲湖ナトニキカ中華山東ノ山ノ名ニモ鳲ト云コトハ見エタリ。

一宜牧ハ美濃人ニテ芦鹿ノ大慧寺ノ僧ナリ。寛保元年ニ吉藩大隣寺ニ遊ヘリ。去テ國ニカヘル時、予母ノ喪ニアフ送文ニ及ス。其後再西遊ス。延享ヒ丑ノ春吉藩ヲ発メ、筑紫ニ才モ六六時乎。鎧情之戚ニ遭フ。又詩モテ送ルアタハスキハメテオアル僧ニテ甚詩ニ耽ル。美濃ハ尾藩ニ近キ。以テ時ニ名護屋ニモ至ノ。

蘭臯木實聞ニモ相識ナリ。蘭臯ノトモ詳ニカタリ。性行峻潔。采門中興トモ云ヘキ人ナリ。于日懷之因テし已ノ夏絶句ヲ寄。其中ニ飛錫翩翩桂落暉。天花忽映九列飛侍君白足。カ大海來鯨萬里歸。コノ詩冬、疏ノ久留目ヘ達シケルトナ。丙寅ノ春東歸スルトテ未タリ。握手ノ鎮西イヲ談スルニサドミノヲ。ヲ聞ク霧嶋嶽ニ登リントナリ。ヨハ日向國ノ大山ナリ。風土記ニ天孫高千穗ニ上ノ峯。天降シタヒシト見ユ。即ニナリキハメテ高キ山ニテ肥ノ阿蓆ヨリモ尚高シトイウトナシ。鹿兒島ノ城モ下ニ見ヘテ西洋海ヲ臨ムトナシ。中山峯ニ大ナル穴アリソノメクリセハ町モアルヘキ陽焰モヘテ石巖采心アカシトナシヨワテ七言律一章ヲ賦セシトテ語リシ中春蒼赤壁彌天焰劍効青霄映ヨ文ト云ハ

此事八白石ノ記  
其高子觀遊  
霧島ノ記詳  
二見エ

實錄ナリト云キサテ其劍ト云シモノハ土人ハ天ノ逆モト名ルモノ  
ニテカノ天孫ノアヘクタリ玉ヒシ時ヨリ傳フト云ナリ白石ノアラハセニ東  
雅ヲ考ルニ天孫天クタリ一セシ初ニメテラシ矛ハ今モ日向ノ諸縣郡  
キリシテ山嶽ニ現在ストニヘタリ尚神代卷考ニシ絶頂ニ其  
矛アリテ長サニ尺余モアルラン黄金ニテツケレルヤ地ヨリニ尺余ニ  
至テ鬼面彫タルツケタリ上ハホコナルカ盜賊ノ為ニヲラレタ  
リト云其アリサヘ數千年ヲ經タルモノニテ神造ト云トモ誣ヘガ  
ラス寢ユト語リキ長崎ニモ至リタリ大音寺ニテ玄海上人ニセ  
謁シキ詩文ヲ詣ヘトモアタヘス空鍋ニ其文數首ヲウツシテア  
シ為ニ遙ニ携ヘ歸レリトテ出メ視セタリキ序始テ玄海ノ文ヲ  
觀ルトヲ得タルサテ長寄ノ謙光和尚ノ書數紙ヲ出テ

視ス中ニモ唐詩七言ヲ書ルキハメテ美觀ナリ華人ニモ中  
今ノ清人ハ及ヘカラス清人ノ長寄ニ居ラシメタル可亭ノ草亭  
書ヲ携來ルヲ比視スルニ謙光之書大ニ超過セリニ亭ノ  
見ルニ足ス予較筆節メ悅タリ又清人ノ画ヲモせヌ風雅ナル  
方ナシ謙光和尚ノ詩文ヲモ見セラキコレハ宋人ナリニ足ラバ  
謙光和尚ハ廣澤勝公謹ノ書ハ和氣有リト云ヒドナリ誠ニ  
然也予嘗謂吾日本書法ヲ得タルハ徐翁一人ナリト予家  
ニ徐翁ノ真跡ノ于鱗カ絶句アリ予カ家連城壁ナリ出  
謙光ノ書併視ニ謙光モヲサヘラトルシク寢エタリ筆意  
ヨク解セラレタルト見エテ大字ハ猶尚可觀モノナリ客歲清人  
伊孚九トイヘル長崎ニ来テ書画ヲ大セル三紙携歸テ予見

セタリキコハ草亭可亭ノ及ヘキニ非ス少シク文盲ニモシヒト詩十首ヲカケ  
ル友故ヲモ予ニ見スルトテ携乃歸レリ其詩記得天台 岩歸滿山  
松露濕人衣十年眼底無林處今日書圖者翠微山互秋  
八月唐山伊享ト書ケリ天台山ニ遊覽セルト見ユタリサテ牧牛  
天笠ノ人ヲ見タリトナシ三十餘年來ラサリシカ久シテ絶タリシカハ  
釋師言え通スルトヲ得ス清人鐸メ初テ通シタルトナシサテ天笠ノ人  
夷狄ナルト慥ナリト宣牧云タリキ予笑テ師ハ釋門ノ人ニ何ソ  
天笠ヲ貶スルヤト云ハ彼モ又笑テ俱ニ逆一ナシ紅毛人ノシレ來ルクニ  
ホウヲモ見タルト也牧カヤトシタル主人ノ館ノ前ニモ紅毛人一大船一テ  
日シロホウヲモ見タルトナシ劇談ノ中子業來リ席上七律ヲ賦ス一葦  
西來大海灣遙從縹緲綠雲間彌天花報金猊坐飛錫

雲淳赤馬閑結社苦曾無白眼論文方外有青山漫游開  
說津梁遍立十三員問道還

一亘牧養疴ニテ暫大藩ニ留滯ス屢訪ヒ来リテ西游稿  
其中赤馬閑懷古周長西国道中ノ詩アリ又大宰府ノ  
古跡ヲモ見官公之祠ニ謁ス各五言律アリ薩列ヘモ十日ハカリ  
アリヒタリハ薩列ノ傳聞サヘニ傳レトモ多クハ偽妄ノ説ナリ  
実ニ其詳ナルトヲ聞ニ鹿兒島六城ナクテ館ナリ諸士大夫ノ  
多キコト尾藩ニ三倍セリト語ヒリ又外城百十所ニ及ヘリ其中  
和泉口高岡シブシ都ノ城此四所ハ士千人アリ其余外城  
二百乃至五六百アリト語タルトナリ皆農兵ナリソレ立外城士  
トテ少シク鹿兒島ノ士ヨリハ格式オトルヤウニ聞ユトナリ予謂鹿

兒嶋ノ士ハイ父ル越王勾踐ノ君子ノ軍ナルシ齋ニセナ餘城ト  
聞薩列ハ大ニサレリ不啻十二東秦ト々ケ法令ノ嚴密國有  
驚嘆スヘシ又牧日向ニアリテ名高キ古月和尚ニ相見シリ久  
留宋ニテ大夫有馬監物ノ別業ヲ觀ルトナリ其時ニ希世ノ  
珍宝王右丞力画山水ヲシタルトテ語リキ又肥後ノ熊本ノ城  
郭壯大尾藩名護屋ノヲヨブヘキニ非ス清正ノ雄威ニシヘント  
カタリキ彼僧ハ殆慷慨ノ節士ニ似タリ美濃ノ人ナルエ卫閔  
ケ原ニモ至リテ其驛ニアル处士岡本半助カナセル閔ケ原合戦  
圖ヲモ見又岐阜山ニモ度ニアリヒタリシカラメテ水ノ手嶮山  
方ナシ土人今ニ傳テ池田家ノ士イカニメ重キ武畠ヲコタケカ  
ル所ヲ攻上リシニヤト美談ニスルトサセミ語シナリ今昔大藩ノ

士ハ岐阜ニテ軍功有シヲシリタル人サヘ罕ナリ世ノスエサソ歎カシ  
キサナ牧日向國ニテ宇土山ノ靈窟ニモ遊タリコレ玉依姫ノ古跡ニ  
鶴羽葦不合尊尊ライツキヘシル所也律詩作ルトテ雲飛隱見神  
靈窟月出玲瓏龍女珠絶壁烟花皆翠彩密門樓閣半  
虛無ナト云對ナリ詳ニ其勝跡ヲ談スルヲ聞テ始卧遊興慕  
禹穴上會誓ノ昔語リ思出ラレツ牧又高良山ニ登リコヘ武  
内宿称ノ祠ナリ曰玉座宮七絶アリ高山巖峯鎮九區中峯  
雲盡王宮孤仰君征戰功成後海外三韓入版圖高良ハ筑  
ノ山ナリ又イツク島ニアソヒシ時ノ七律ニ雄大ナリキ牧又亥海  
上人ニ文ヲ学フヲ問上人曰司馬班固ヲ学フコトカタシ彼二家  
ハタトヘハ世謗ニ云イリ豆ニ花ノサキタルナリ何其質ヤキモノ、学

ヘキヤ後漢書ヲ學テ可ナリ入ヤスクメ又六朝ノ淳靡ニモアラス是  
後世文ヲ學モノ、軌範ナリト又筑ノクルミテ岡野三左門ト云人ニ  
遭ナリキ岡野數年前夙ニ六十シテ中華ノ湖州ニタヨヒシ艱難  
ツブサニテ南京ニ至リテ送返セレタリ其時古ノ魯地ヲ遇シ孔子  
ノ廟ニ華人ノ詣ルコト日本ノ伊勢參宮スルニ似タリトナリ國字ノ  
記セル記フトリ出メ見セタルヲ讀タリキ珍ラシキ物語ナリトテ語レリ  
一吉藩旭川ノ東涯今ノ花魯ト云所江別業ナリ宮内君公諱忠雄  
烈公内  
備前ニ封セラレテ後遊覽ノ地ナリ館アリ得月臺ト名シケトカヤ  
予カ外大父ノ友故之中ニ得月臺ノ記アリ禪僧ノ文トミヘタリ内  
ノ推往来テ見セタルナリ方ニ町ハカリニ過ス烈公ノ時アラタマリテ  
今ハ士ノ居所トナリヌ宮内君ハ城中ニモ樓ヲ築キ玉フ今ノ月見樓

即是也

一能澤七郎父ヲ八郎ト云八郎ハ猪大夫力子也猪大夫ハ幼名ヲ權ハト  
云モト松浦侯ノ士ナルカ故アリテ十五ノトキ出奔シテ烈公ニ事奉  
後松浦侯 大郎ニ至ラセ玉ヒテ 烈公ト相見アリ權ハ茶ヲ持  
テ持出タリ松浦侯熟視アリテ烈公ニカレ吉カモトニアリシ者ナツ  
國ヲ出ル時吉アタヘタル折紙ヲヒキサキテコノ折紙ヲ他国持ユキテソレヲ  
タヨリ祿ヲボニアラスト云タリキ無礼ノ一言ナレトモソレハ年若クテ短  
慮ノユヘナリオヒサキ一志アルワカ者ナリ懇ニセザセトエトノ玉ヒ名  
トブリ猪大夫和歌ヲ好メリ

湖水

アハ棹みあく下りてひ私の浪をぬめりとまのむかし

舟

世の中ハ思へハヤすき、もとよりは枕ちつて波の川舟

千鳥

因縁ノ如く御ゆゑ所の少くもあつて、ゆきのえにしらへ  
ナト猪大夫ノ詠歌ナリ應兵記碑玉話等数部ノ書ヲ著ス碑玉  
話、今刊行せり八郎、大藩ノ執法ニテ国政ヲ只一人ニテ擅ニシキ又方  
氣モアリ中院道茂公門人ニテ和歌ヲモ能ヨミタリ

一岩田翁ノ話、禁裡ニアル手長足長ノ繪トハイカナルモノヤト  
岩田翁ノイワレシニ予モトヨリ記憶セス凡カニ後ニ清少納言カ枕草紙ニ  
見出セリ清涼殿ノウシトラノ隅、北人タテナル御サウニハヤラウニ  
ノカタイキタル物トモノラソロシケナル手長足長ヲカセシタルトイウニ

又禁秘抄ニモカルヘシ考ヘシ山海經ニ見エタル圖ナルヘシト思ハル

一先妣嘗清少納言ノ對雪捲簾ノコト語リ冬ヒテ今ノ士君子ノ  
文雅ナキヲヲナキテ禎文学ニ志スコトヲ悦玉ヒキ近頃枕草紙ヲ  
見ルニ其ト出たり雪ヒトたがくナリ例アリヒツ捨子まわ  
せてすひつゝ歎かうて歎経みてあつりまくす少納言  
からふるのをいふんと作られれみかじりけさせてみ事  
多くまじれあげたれハヨウとせたまく今ハ皆まくのハちりすか  
とよそくたと思ひことよりさりつけねせらのトトヨウきよ  
アリヒツアリナリ其餘史漢晋書古詩ナト皆ソラシモタルト枕  
草紙ニ見タリ先妣ノ教誨猶存ニアリ其容ハ邈然トシテ逝タ  
ニヒヌ吾学ノナラサル悲哉。又枕草紙ノ中ニ白玉キ三道ノクカニタ

ノモ白フ清キハ上タルコトモウレシ又世申ムシカシフカタ時アルヘキ心ナ  
トモセリイツキモ、イキウセナ、ヤト思フニタノ紙ノイトシロフキヨラナ  
ルヨキ筆ナ、エツハカクテモシハシアリスヘカリケリト書タルヨリ禎。ト同  
シ嗜好ナレ物書ウツサニ料ニコレヨリヨキトヤハアル面白キ、ヲモ書オ  
キタルト覺エナリ

一大藩ノ地名ノト鹿喰嶋ハ草嶋十ト、云テ詩ニ入レハ可ナランカ琴浦  
白石ノ如キハモトヨリ佳名ナリ常山ハモトヨリ吉大藩ノ望ニテ文  
ニモ詩ニモ入レテ雅正ナリ大手ノ御門ハ南門シカルヘシ石山御門ハ  
石門ニシテ然ルヘシ論語ノ魯ノ門名タルト見エタリサクラン御門ハ花  
門ナトニカルヘシ目安ノ御橋ハ諫橋を相應スヘキカ岡山ハ春秋  
ニモ記ルセリ鉢御門、如何シルスヘキ牛窓ハ牛諸然ヘシ平井山

烈公儀冢山ニ名付玉ヒヌ經濱ハモトヨリ宜シハタ山、泰山然ルシ  
金山ノ不松ハ孤松嶺トメ可ナリ川向ノ花留ハ得月臺モトヨ  
リノ名ナリ平井ノ祠ハ華山トモアレハ尤宣カルヘシ東川ハモトヨリノ  
旭川ト名ツク詩ニ入テモ可然トナリニ本松ハ雙松驛ト云ヘキト子業  
イベリユレ行旅人ヲ送別ノ前ナリ別レ茶屋、如何詩ニ入ヘキ吉備中  
山ハモトヨリ千日ノ酒ノ故吏モアレハ面白シ唐琴ア泊和哥ニ入レテハ雅ナレ  
トモ詩六如何入ヘキニヤ東山モトヨリ然ルヘシ魯ニモ孔子東山ニ登リ  
玉ヒシテアリキハメテ想應セリ虫明ハ夙景ハ勝レタルニ名雅ナラヌハロヲ  
キ月見ノ御櫓ハ望月樓尤シカルヘシ玉葛山ハ古キモノニハ見エス  
サレトモ佳名ナリ

一 點本ノイ文字者第一ノ要務ナレトモヨリ知ル人尠シ點発ニ因

テ文義ワカル。トハ云ニ及ハズ詩近體ニ声ヲ誤用凡モ點聲ノセ  
ニキ少々故成ヘシ廣陵散ノ散ハ仄声ナリ平声ナリト云說アレトモ  
矣ハ仄声ナル故王元美力絶句ノ第三句ハ用タリ僧ノ太湖カ華  
音自負ニテ廣陵散ヲ平韻ニフミタルハ却テワラフヘシ將軍將  
平声ナリ大將ノ將ハ去声ナリニキラハシ故南郭老師ノ宮詞ニ  
仄声ニ用タヘバ一時ノ筆ノ誤ナルヘシ老師スラシカリ况ヤ昔儕ヲヤ  
中華人ノ詩ハ將軍ノ將ハキハメテ平声ニ用タ。

一讚岐國否谷ニ満谷悉佛像ヲ彫タリ數千仏ノ巖ニモ一尺ニ尺  
ノ石ニモ或ハ五丈六丈ノナメラカナル所ニモ少シ計ノ石ニモ彫ラヌハナシ  
佛像數萬ニ及ヘシト云人ノアルヲ怪シキユトニ思ヒニ近コ石岩田  
翁ニ向ニ翁モコノ谷ヲ覽ラキ人ノ言ニシテモ名カ父翁キハメテ勘

サアル人ナリシカ石エニ委ク詰リテ計ラレシニ數百人ノ石エヲ以三十年ノカラ  
不尼ミハ成ヘカラスト且數十仏ノ巖アシロヲクムノ料用費ハ凡ルカズ  
如何ナル人ノナシタルトニヤ吏心得ラストテ詳ニ其見タリシコトヲ詰ラ  
レキ土人ハ弘法大師ノ彫ト云ナル翁ウキタルトイウ人ニ非ス世ニハ  
アヤシキトコソ多カレ

一吾大藩ノ土肥典膳錄四至夏  
世之大番師土肥實平力末裔ナリ丙寅ノ春後  
役東都ヨリ歸ルトキ伊豆國ノ土肥ニ立ヨリタリ小田原ヨリ南ヘ行テ  
根府川ノ関所ヲ踰ヘ早川尻ニ至リコレ則源平盛衰記見エタル  
類朝夜中ニ舟ニテ汀ニツキタル幕引クヒカセ火タキテ敵ノ酒宴シタルヲ忍ヒ  
テカヘルト見エタル是所ナリト也石橋山ノ道真田與一ト文藏トカ  
古墳アリサテ土肥ノ村里ニハ同姓ノ人ナシ然トモ一向三舍ニテ王父十トノ

名ヲハ早忘レタルホトノ所タル由サラバ村里ノ人ノ中ニ實平カ未モアルヘケレ  
トモ分明テラス器物モ文書モ傳ルタルコトツモナシ只寺ニ実平ノ位牌有ニ  
ナリニナツル土肥杉山ヲモ見ラキ皆分内甚セハキユトナリト語ラキ  
一日本ノ刑汰古惡源太義平ヲ今云打首ノ仕カタナリサレモ切手難波  
次郎ナリキ重衡ナトモサ首ノシカタナリ東鑑ノ中ニ切腹ノ見エスト云  
人アリ他日可考フナリ石田治部三成小西行長ナト六条河原ニテ殺  
セサドモサ首ノ例ナリ仇敵ノ人ナレバトテ此二人主君豊臣氏ヲ弑ゼルニ  
モアラス皆千乘ノ人君ソカシ白盃ニ縛メヒキハリ出シサ首ニセラシ  
イカナルコトニヤ心得カタシ　國初佐命ノ臣皆文学ナキ故ナヘシ  
既ニ　神祖三成ヲ縛セラレテ後相見ノ時平時御アシラヒト聞ユ  
人ヲ殺スニミナト禮汰ノ十カルヘキ豊臣秀吉ノ暴杭ナル嗣秀次ノ

妾ヲ殺シテ畜生塚ト名付ルニ至ルニテアヘナク亡ラタルケニコト  
ワリニコソ

一丹澤氏右軍ノ書タル瘞鶴銘ノ新刊本ヲ見セラル予謂適美ハ云ニ  
及バヌ予書汰昧シ其真質ヲ定ルアタハス然トモ華陽ノ真逸撰  
トロニテリ晋時ニカヤウノ号アルヲ聞ス大ニイフカシキコトナリ又其書汰  
宋人似タリ心得エリスト云タリキ後日危言ヲ考ルニ瘞鶴銘ノコトタレカナ  
ルナシ何ヤラ示說ニテ見タルモト此銘ハ水中ニアリテ全文ヲ寫シ得タル  
人ナシ歐陽永叔立十字ヲ得テ自負セルト云アリ後全文ヲトリ  
出セルニヤ覓束ナシ五難想ノ中ニ定テアルヘシ他日考ヘキコト也。  
一日本ノ舌八郡縣今ハ封建中華ノ古ハ封建後世郡縣タルト云  
及スヨリニ因テ制度封大ニタカヘルハ学者ノ心ヲ付ヘキコト也中華ノ

古三代ノ君子皆劍ヲ帶タリ但秦翁ノ孫子解ノ中ニ秦始皇ヨリ  
已後丸腰ニシタルトニレタリ秦始皇ノ時ノコトハ詳ニ史記ニ見エタリ  
サレトモ西漢ハ丸腰トハ見ヘス君子皆劍ヲ帶ラレタルト漢書中ニ  
所々見エタリサラスハ東漢カ晋ノ頃ヨリナルヘシ他日考ヘシ

威光ヲ洋ニシルメ古ヘノ武將タチノ像ヲ画ケリ繪ノ体百年許モ前ノ物ト覺ユ 天子ノ御像モ見エタリ大ニ心得テス平家物語ニ平重盛ノ父相國ヲ諫ラシニ吉國ノ天子イヲ云テ其次ニ三公タク人ハ皆天津兒屋根ノ御末裔ナリ鎧ヲキルヲナントイワタリ重盛詐偽ノ言ラ吐ヘカラス又平史モ寔錄ナリ三公ステニ甲冑セスシカル美天子ノ御鎧ハ紫色ナルト見エタルハ何ニヨルニヤ 神功皇后ノ外天子ノ

甲冑シ玉フノ詳ナラスレテ錄ノヲトシモ傳ルヘキヤウニシ只太平記ノ中ニ南朝ノ天子ハ幡ヲ落サセタラ時山木判官カ一ヰラセシ黃糸ノ鎧ヲメスト云々見エタルハ武士ニキテヲチサセ玉ハシ為ナリ卷物三軸キハメテ重宝ナリトテ或人見セラキ

一信州諏訪ノ湖ヲ鵠湖ト今ノ詩人用ルト何ニ木ツケルカ夫木集ノ和歌トケソムル氷ヲイカニイトラシアレムラワクルスハノ水海ト西行法師ヨメリ又顯昭カ歌ノ氷居テ步行ワタリスルスハノ海ヲ出ワツテハ鵠ノウキ舟コレニヨル欲又箱根ノ湖ヲ蘆湖ト云ヘシ近來詩人用タチ未見ス鵠ノ長明カ道ノ記今ヨリハ思ヒニタレシ芦ノ海ノ深モヒヲ神ニカセテトヨメリ

文ニ入ラレス多キソナケカシキ

一江陵集鎌倉懷古七律十首刊本ニ逸スイカナルヲニヤ南郭老師ノ  
鎌倉懷古ヲ子式評ニ王李集中所無ト確論トスヘシコア謂ニ  
老師ノ七首老杜諸將九首之上ニオクヘシト但シ萬和尚サキ鎌倉  
ニ遊ルト聞ニ然ハ一番鎗トハ覺ユコレタトフルニ謙信ノ小田原ニ攻  
入タルハ萬庵ノフルヒナリ信玄ノ小田原ニ攻入タルハ謙信ヲ学テ也  
然レハニ君ノ七律モユレニ比スヘキカ謙信ハ敗軍セラタリ信玄ハ敗  
軍セラレス然トモ一番鎗深働シタルトナトシニクキナルヘキヤ  
予又謂萬庵ハ吉邦ノ江文通ナリ但弇州カ歌行太白カ七絶ニ  
擬スル難ナシコレ萬庵ノ詩ノ長スル所ナリ天縱ノ才摹擬ノカノ  
不及フレルナリ它人オノ自負せハ必擬作スヘキニ予又謂懷古ハ  
萬庵得意ノ作ナルヘシ日本ノ故事ヲアノヤウニキリハスト南郭免

先生ノ外一人而已

一京極黃門ハ拙筆ナリシカルニ世ニ珍宝トスルハ和歌ヲ以テノ故ナル  
ヘシ南郭先生曰定家卿拙筆ナレトモ和書 和歌ノ字幾部ト云  
ヲシラス書レタルト見エタリソレユエニ自ラユナテ能見ユト尤然ル  
說ナリ禎力先君子佐理ノ大貳ノ書ヲ藏メ玉フ後雀部氏ノモト  
ニヲサム佐理ノ書法寔ニ吾東邦ノ第一タルヘシ三島明神ノメテ  
タヒタルケニ理ニヨソ詳ニ増鏡ニ見エタリ

一熊澤了介ノ經濟ハ老子ニ本ツケルト多シ全ク地中ヨリホリイタストヲ  
忌メリヨシハ前漢ノ貢禹カ說ニ極レルナルヘシ春臺先生ハ金ヲホリ出スヘ  
シト經濟錄ニ見エテ了介ノ說迂繆過半然トモ又長計遠慮腐儒  
ノ及フ所ニアラス數十年已前ニイワレタルト的中スルト尤多シ樂ノ說ハ

最確論トスヘシ古河ニ幽閉ノ後人未リテ学術又ハ世事ヲ談ス  
レハ答ヘスメ側ナル笙ヲヒキヨセテ吹レタルトナリ古河ニアリテモ少シモ  
憂患ノ色ナシ君子ノ操ミツシ 曹源君ヲ諫ラシタル書一通今ニ  
下濃跡左衛門ノ家ニアリ津田左源太カ執政メ國ヲ恣ニスルヲナケ  
キ數十條ノ呂目ヲアケヲカレタリ其中ニ武田四郎ノ天目山ニアリサヘ  
今備前ニテ見ルヘキトチナケサシサニカクハ申ストシルサレタリコノ書ハ大カタ  
明石ヨリコサカルト見ユ石川翁其書ヲ見ラセキトテ語ラキ治道ヲ知レル  
人了介ノ如キハ少カレシアリハ婦人好女ノ如ク見エシト老人ノ語キ

一九月十三夜月ヲ賞スルト從然艸ニ見エタルハ誤ナリ中右記ニ保延元  
年九月十三夜ノ月ヲ寛平法皇賞玉フトアリト也菅原相宰府  
ニテ九月十三夜ノ月ヲ見ル詩アリ然レハ其頃ヨリノナルシ源氏タ

霧ノ卷ニタキリノ大將小野ヨリ歸リ冬ノ時九月十三夜ノ月イトナ  
ヤカニ指出タルト見エタリ六代集ニハ十三夜ノ和歌ナシト季子吟ノ説ナリ  
千載集ニハ十三夜ノ月ノ和歌アリ

一江陵集ニ擬唐荆川七律アリカハ題岳武穆ノ廟ナルヲ岳將トシ  
タリ烏石山人誤レナルヘシ

岳武穆廟 唐順之

丹青畫壁閃旌旗想像勤王轉戰時黃屋未歸南駕籽金  
牌已罷北征師平蕪漢前朝隔曠野陰々暮鳥悲惟有西湖  
原上樹春來猶自發南枝

一伊勢物語ニ見エタルウツノ山ヘノツタノ細道ハ今ノ驛路トハタカヘリ清  
水谷實業卿閑東下向ノ時逢人ニ今ハ中所セク引オツム駒ヤウツ

ノ山越コノ歌ニテ 天子ノ逆鱗ニカニシルトナシ又隅田川ニテ詠タル  
都鳥ハ鷗ナリト云説アリ然ルヘシシキノ大サト物語ニ見エタルハ大河ノ  
上ニ浮ヒタランニハ少クモミエツヘシ昔ヨリ歌ニ都鳥ハ智田ノ御崎ヨリ海高  
津ナトニヨニタリサラハ鷗ノ説シカルヘシ白鷗ノハシトアシハ赤キナリ疑ヘク  
モアラス

一予地圖ヲ觀ルテ好ニ吉野嚴島ノ圖ハ貝原益軒詳ニシルシヨケリ  
松嶋ハ洞岩ノ圖アリトキク松島ハ仙臺侯ノ封國ナリ備藩ノ仇讐言  
國ナレハイカナルアリテモ其地ニ遊覽スヘキニ非レハセメテ洞岩ノ圖  
ヲ觀シトヲ欲ス予東役ノ時東海道ヲ經西歸ノ時岐嶠ヲ經タ  
リ平安城ノ地ヲハ踏ス

一今ノ和刊ノ杜注ノ左氏ハ宋ノ本ヲ翻刻シタルナリソレニ卫字様大ナ

明末ノ刊ニ本ハ字キハメテ縹密ナリ好尚ノ異ナル也今ノ清朝ノ刊  
本又キハメテ丁寧ニシタル多シ夷狄ノ風トモ覺エス康熙帝ノ遺  
詔ヲヨメハ誠ニ閑國ノ人君非常ノ帝ナリ

一武家百人一首ヲ見ルニ古ノ武將タチ風雅ナルコトナリ近來戦國  
ノ諸將ニモ謙信ハ詩歌トモ少シナリタリ信玄ノ詩ハ其時ニテ詩人  
トモエヘシ柴田勝家ナドハ無風流ナル人ト思ハルレ疋敵ニ取カコニテ辞  
世ノ歌ハ尙白シ細川幽齋ハ勿論歌人ナリ蒲生氏卿ホトノ板將  
ナトモ歌人ナリ伊達家ト國疆ノ論アリシ時陸奥ノアタナカ原ノ黒塚  
鬼コモリト云古歌ヲ引テ勝レタリ黒塚ハ其コロハ伊達家ノ封地テ  
安達カ原ハ氏卿ノ領タリシト云ニヤ幽齋ノ由辺城ヲアケ渡セシヲ田  
子漢ハ玩物叢志トエヘシト云レタル尤ナレトセ 山城天皇ノ敕ナレキ

冬ナク逃ダリトモニカタシ文ヲシラヌ武ハ用ニ立ヌ一ナリ秀吉信長ナト  
ノ治世ノ短モ文ヲシラヌ武ナリ 神祖ハ御学問アリタルト聞ユ林羅  
山ニ御尋イナト皆文学ノオハシタル證ナリ今ノ如ク武家ト覺テ武  
ハ何トエラ知ス國字ノ和歌サヘ得知ラヌハイカラヤ王人トテアサケレ  
ト昔ノ王人ハ多節慨ノ人ナリ從然草ニ資朝ノ爲兼大納言ヒトラ  
ハレタルトキノ一言英雄ノ志トエシ源中納言冥行元享ノ乱殺サル時  
露ノ身ノ草葉ニカルハテハミツアハレ東ノホソユカシキトヨメル程ナク鎌倉  
ノ亡タル地下ニサソ悦ルラメト思ハル

一或會ニ武田勝頼ノ評判アリ余謂 神祖モ長篠ニテ柵木ヲ前ミテ  
軍ヲナサレタル勝頼ナリ今人ノ云コトク愚ナル人ニ非スツヨ過キ亡ヒタル  
ト云イハ誤ナリ女姫臣長坂跡部ニ亡サレタリ武田ノ諸將モノ文学ナ

キ故禮義ノトリチカヘバ有ヘケレバ勇ト智トハ今ノ人ノ及ヘキニアラス  
長篠ニテ數千火器ノ的ニリテカカリタルハ勇敢ナリ然ニ長坂跡部  
ヲセリツクル一ハナラスコレ女姫臣ハ君ヲキテヲルユ卫姫臣ハセニラヌナリ  
コレニテ火器ヲツルヘタツヨリ女姫臣ノオソロシキフ見ツシ高坂カ諸侯ノ  
亡ブル時猿イヤウナル士力集リテト書タルハ千載ノ確論ナリ聖人テ  
タ起リタマフトモ此言ヲカヘレ故ニ亡シトスル國ノ前ヲシルトコレヨキ  
ハナシ高坂ハ歴史ノ治亂ノ理ハシラク子トモニアタリ見タル故カクナリ  
只ノアタリ見ルコソナケカシキ 烈公ノ御時吉木善太夫ニ執法  
ノ命セラレシ翌日追放ノ士アリシニ善太夫コレハ某イタソノ罪ヲ  
知ラストヘラレヨト云大臣既ニ罪名ニキハリタリ昨日ヨリ新職ニテ何  
カシラシトエシニ善矣昨日ヨリノ新職ナリ故ニコソカクハ申セト筆論

メツヒニ其人罪ニ決セリ 烈公大ニ賞賛せナセ玉ヒキカル人モアルヘケレ  
トモ用ラエ子ハ土芥ニヒトシキトナリ世ノ中ニ女奴臣ホト恐シキモノナシ古ヘ  
君子明哲保身ト云ユトワリ也

一 東都火災ノ時淺草ノ内近頭殿ノ邸モ焼タリ野村先生モ亥ノ  
供ニテ十町斗モ出ラエシ時亥ノ愛スル所ノ物居間ノ床ノ上ニアリ  
惜キトナリトノ玉フヲ聞テトツテカヘシテ邸ヘ入テ見レハ黒煙モエノホル未タ  
床ノ上ニ右ノ書有トツテ懷ニメ出ル時門ハヤ火ノ中ナリニ神三四郎焼  
死シ久ハ此時ノコトナリ三四郎カ戸ノカタハラヲ通リテ外ニ出ル時野村  
ノ客舎ニ火災熾ナリ此時 あまのたぐいれよハゲノム  
因縁あとく煙立之のイモリト詠セリ鬢髪モコケテノカレ出  
ラレタリカルキハニテノ詠歌タレヤノ人ヤ及ヘキ今其事ヲシレル人幸

故ニマニシルス

一 徒翁ノ論ハタテノツカレヌフト覺ニ答問書ニ人材ハキズ物ニアリト云  
レタリコ此一句相劍ノ道ニトリテ思過半上手ノ古劍ハ十三八九ハキス  
アリ今テノナニクラモノニハキスナシ今テ木阿彌家ノ論ハ價ヲ定ルニハナリ  
今日用ニタル心ナラハ劍ヲ白壁ノ如ク覺ヘタルハ笑ヘキトナリコレル疵  
ヨリ外嫌ヘキトニアラスサルニヨツテ古人戰國ニ用タル劍皆疵モナリ  
武列公ヨリ臼井重太夫ニ賜タル高田ノヲサ盛ノ服差千載一つリソ  
キレモノト云ヘシカレ凡大ニ疵アリ故有テコノ短刀他人ノ手ニワタリ  
賣物ニナリ允時予貯ヘシト思シニ金ノ蓄モ十クテ空ク歩過ヌ今ヲ  
去ルト十余年劍ヲ觀ルタニ思ヒ出スソカシコノ事ニハ濁富モウ  
テヤニシト云ニ田子漢根也慾トワラハレシソラカシキヤ又徒翁古言ニ

テ六経ヲサハカレ其時代ノノ言ニテオスヘシト云レニハ文学ニ精ナルヲ  
獨得ノ見ソカシユレニヨリテ日本近來ノ軍記ヲ見ルニ實錄虛錄タ  
ナゾ、ロラサスカ如シ

一白石ノ軍器考ニ烏頭ノ大刀ノアリ未詳ナラストナリ

縣官ヨリ紀藩ニ命セラレテ熊野新宮ノ宝物ヲ圖メ出サシメラル  
新宮ニ烏頭ノ太刀アリコヘ 天子行幸ノ時ヨセラレタル太刀ナル由  
紀藩ノ士宇治田平左衛門忠郷其命ヲ承テ即摹得タリ其圖  
甚秘シタリシヲ去年求出メウツシタリキメツラシキトナリサレハ應仁ノ  
乱ニ王室ノ典籍ハナリくニナリタルト聞ユ水戸義公ノ典籍ヲ求  
玉ヒシヨトハ度々聞ス日本史ハイカナル覇藏ナルニヤ

一享保ノ縣官延享ニ譲位ノ後ヲハ如何シルスヘキヤ太上皇トモサス

カニ書レニ何コトモ中華ニアテミレハカヌスト而已多シ南郭先生ハ大坂  
陣イヲ左傳一部ノ字數ニテカルヘシトノ玉ヒシカトモ中ミ禎カ思タニテ  
ハ及モヨラヌコト也

一日本ニテヒゲソリニハ何レ頃ヨリニヤ今昔物語十トニテ見ル時ハ中ミヒゲソ  
リタルトハ見エス源平盛衰記ニモ色白ク髭黒シトニ平氏ノ人ノ  
中ニ有其頃追ハソラサリシト勿論也又サカヤキノコトハ砂石集ニ月  
代ノアト、イウコトアレトモ僧ニナリタル人ヲ云タルナリ北條氏頃ヨリトモ云  
又松永彈正ニ始ルトモ云正シキ物ハ見エス又男子ノ齒塗ルトハ  
鳥羽院頃ナリトナリ日本ニ周禮ニテアタリ殘リタルハ九糸ノ中ノ振  
動ソカシメツラシキトナリ人ノ死後戒名ヲツクルコト古卫 天子八金剛  
覓ナト戒名ノハシメトモエキ人コトニ然ルニハアラス今ノ一同ニ戒名ツケル

トハ何レノ頃ヨリニヤ韻鏡ニテ名ヲ及スルト寛永ニ始ルト併非セラレ  
タトモ詞華集ヲ其時反スレバ奢者ト反スヨロシカラヌトナリト云イヨシ傳  
レ其頃ヨリ初ルニヤ日本ニハカヤウイ云傳アリテ記錄ナキト多シ華  
人人如ク筆ニメナル人ハ日本ニ少キ東海先生ハ右ノ手ニ筆ヲ把左ノ  
手ニ書ヲトリテ一生ヲ終ラレシトヨソニナ必鷄鳴ミテ讀書シ或鳥  
ナキ夜明テ敬馬テイ子ラシユ卫毎モ朝子セラレシト熟塾ニアリシノ  
詣リキ又仁齋ノ講ヲ聞シ樫宗節カ云シハ不覺感發ミテ落涙  
ニ及キト名下不虛ケニモト思ヒタリ唯聖人ノ道ヲ天地自然ト  
見ラレタルハ宋儒ト同シトナレハ孔門ノ意味血脉ノ自負ニア  
ハヌソソカレ

一舞ノ本ト云モノ數十巻アリ今此舞諸國ニ絶タレカ如何吾

藩ノ桶屋町ノヲケユラ男ハ近年一テ覺タルカ多カリキ甲陽軍鑑  
議論理窟ヲ云タルハ皆舞ノ本ヲ證トセリ其時舞ノ本ヲ正シキ  
實錄ナリト思ヘル時勢ノミツキナリカヤウノト瓊細ナレトモ時ヲ元  
ヘキ為ニ聊シルスナリ老人ハ多ク舞ヲセテ見タル人多シ

一大藩典刑數レハ元祿年中津田氏左源太ニ始レリ津田氏カ雄々企及  
ヘキ所ニアラス其執拗ハ王荆公ニユヘ委任又神宗ノ王荆公ニ任シ  
玉フヨリ甚シ吾家ノ民部ヲ始テ剛正ノ賢者皆斥逐セラレ殆國  
危ニ至レリ今ノ有司皆津田ヲ上モナキ賢者ト云是寔ハ烈公ノ曲  
刑ヲ悉ヤフリステタル也了介ナケカレシモケニサルトニヨソ  
一徳翁ノ学古今ニ獨歩セリト思ハル大東中華ヲ去ルト三千里  
渺漫タル東海中ニ生レ出テ先王ノ遺文ヲ日月ヲ青天ニカケ

タルヤウニシタルトイカナル人カ及ヘキ中華ニ生レ出タル人ハ聖人ノ國  
ナレハ先王遺澤ノミ殘レルトモアルヘキニ誠ニ聘唐ノ礼モタエ保元ヨリ  
數百年ノ戰國ニテ日本古ノ文雅モウセ真ノ倭奴トナリタル中ニテ先  
王ノ道文辭ヨリ見出シタル漢ヨリ後絕世人物ト云ヘキニヤ刺ヘ雅樂  
軍旅ヘテキハメラシ其緒言一二モ後人ノ及ヘキニ非ス又育々ノノ孔門  
ヨリ後誰ヤノ人カ及ヘキ今周南郭春臺ヲ始トシテ天下知名ノ  
君子皆其門ニ出タリマ予其時ニ及テ一謁ヲ得ス終身ノ憾ナリ  
従翁ヲ朱子ニ比スルノ論アルハ予心服セサルコトナリ復古ノ論ナリ  
ニ迫キリテ定免ト聞ユ然レハ其議論ノ未盡トアルヘシソトトリテ  
従翁ヲ譏ルコトハ予所不信ナリ雖然従翁ノ論ノ中モイカニモ覺  
束ナキトナキニ非ス君子小人ハ位ニテ云トサハキ小人ハ道ヲ不学只ユ

レニ由シメテ置トイウトナリコニテ能割符アフコトナレ凡子游カ小  
人ノ学道則易使ト云リ論詔徵ニモ古訓外傳ニモ此所注十三  
注セラレヌ故ナリ然レハユヨリ後文学ニ精キ人アラハ又従翁ノ説モ  
所々疑有ヘキナリトカク經學ハ孔子復生レキニ父ハ公事ハヒス  
トナルヘシ多言數窮ト云ル老子ノ言サヘニヨリ

一野村先生諱尚房俗稱權六昂号一枝軒和字ノ文章美麗  
ナリ常ニ云源氏物語ノ擬シカタシソレヨリ後上手ト云ル人少シ近頃  
ノ木下長嘯氏一人ノミト因テ舉白集ノ和歌ヲハ取ラス其文ヲ学ヘ  
リ予近日雲洞上人ノ從然草ヲ讀テ驚嘆シキモシ先生ノ在世ノ  
日ナラシカハユヲスシタラシハ必見識大ニ變化メ源氏物語ヲ擬セア  
ルヘキニト思ハシテ遺憾ナリ先生ハ支封内匠頭殿ノ家ニ仕ヘリ

後辭奉致仕市中ニ隠ル時和歌ニサハカシキ市ノ隣リノカクレ  
家ナラス瓢ノ風ハイトハシ禎曰高於許由一等

一先妣遺篋中ニ京極中納言小倉ノ山莊ノ軒端ノ松一包アリ  
コニ野村氏遊覧ノ日一枚葉ヲトリテ歸リタニヘルナリ其時ノト  
ヲシルセルニ山莊ノ古キ蹟ハ今ノ二尊院常寂光寺ノアタリニナニカ  
ノ鄉山家ノ松ヲ詠セラレ

忍そかんぬくかく 小倉山軒ノ松もあれて不<sup>ト</sup>續古  
今集載セラタリ今其松ナホニ葉ノ一木アリキル勿レウツ勿レ  
トウタヒケン民心モサルヨト、覚エテ今此松ノ老木ノ陰云々

あくまようれでそ<sup>ト</sup>きの事もぢりとぬ保佐乃の多々、

コレヨリ以下モ野村氏ノ和歌予記憶せルヲカリシル他日其集ニ因テ

精選スヘシ

年のくれよ述懐のゆと

寂と川<sup>シタツ</sup>ていつと稻舟<sup>ハヤシヌ</sup>廻すと年飯

述懐の歌<sup>メ</sup>

稻舟<sup>ハヤシ</sup>のゆと<sup>シタツ</sup>と寂と川<sup>シタツ</sup>のゆと<sup>ハヤシ</sup>のゆと

弟と<sup>シタツ</sup>れひく<sup>ハヤシ</sup>に<sup>比イ</sup>

寂と川<sup>シタツ</sup>のゆと<sup>ハヤシ</sup>と稻舟<sup>ハヤシ</sup>のゆと<sup>シタツ</sup>とめぐる  
郡吏の職<sup>シタツ</sup>けよよじに述懐<sup>ハヤシ</sup>と寂と川<sup>シタツ</sup>のゆ

めぐる<sup>シタツ</sup>と年飯<sup>ハヤシ</sup>と思ひ

寂と川<sup>シタツ</sup>てもとと稻舟<sup>ハヤシ</sup>のゆと<sup>シタツ</sup>とめぐる  
郡吏役<sup>シタツ</sup>日廻つ<sup>ハヤシ</sup>と年飯<sup>シタツ</sup>と

一 仰りしると思ひゆく

室と門の下りえ歟歟成門の下ふ又アサハの宿  
旅よまくいきむけシ多岐ちよ東北山にゆく  
あらか思ひれん者とまのあはがくもうひまほつめん  
同一ノ日とてさもたゞかうもて送りふ<sup>初名</sup>禱<sup>モリ</sup>  
せうとひの瀬も左へ送り坐といきあきまとまつて  
らまとまほ<sup>トマホ</sup>トモのやうのうに  
ゆせばよかとあけてひそくまもくら斗のをもゆのり  
楠廷尉の討死れ端よ石碑立れよま  
瀧川かうき命のひとうりハミ<sup>ミ</sup>くものうるわのうる  
後よりの年あの方すと仰<sup>アヒ</sup>と向あすの侍仰<sup>アヒ</sup>

遂<sup>ス</sup>き<sup>シ</sup>一

色青をなめしもゆれまつ着<sup>ク</sup>ははーもゆのひとまゆ  
或人のりと門<sup>ア</sup>あのかるをよしゆくゆく  
されなすよアシ<sup>シ</sup>歎<sup>カ</sup>はのまよ<sup>シ</sup>道もくぬ云の季  
豊公の名香ひよしあひてか風うらら<sup>シ</sup>みとよすれ  
ソをまくらまく旅<sup>リ</sup>おれりもと仰<sup>アヒ</sup>一<sup>シ</sup>

一<sup>シ</sup> 豊公<sup>ハ</sup>題<sup>シ</sup>

まともう相もまー山と負ふ數多<sup>ハ</sup>あゝぬ室<sup>ア</sup>室<sup>ア</sup>  
仰<sup>アヒ</sup>て曉<sup>アシ</sup>水津<sup>アシ</sup>一<sup>シ</sup>りて  
やまくまん底あすけ室<sup>ア</sup>室<sup>ア</sup>間のあれ有明<sup>ア</sup>月

哀傷

されよとまのとまをうきひとまのとまをうきひとまのとま

園路早春

室すすむすす壁際の室もあれ、春の名まこと  
旧京音イ おとすすみかくすす小室の沙汰はもはやうし

名前寫

うめやいくよ春波うる音のむすびすれな室の声

園元

園の戸もあとすす明かくものあうりひきの山

野外遊跡

長用いれおみうみうれがまうの山の名まくゆゑか

湖西原 一日西原中

浦をくかへ波と波は波は波は壁の原のやくらん

春波月

室もあと壁はと壁の壁はとあら月夜はははの夜

侍園郭

三明の山郭ははははははははははははははははははは

古河灰音

佐田川をせふ波の冬りふ月もれぬと舟ゑら一

桔魚

絶ひ次よの舟ふうふうふれがくくうの舟の舟

冬月

船をねくすとむとさうとくふの月は白にえり

豊明並

たる衣袖とて之のあまの遠きとせふれば  
御室衣  
月里とてひよりつゝ生ぬ歌をうきの移  
水

人よ今よやれりとうめくとちの正絹すり毛と段  
礼  
かく手りのむら其世のすまよ縫せぬとくと毛り  
に  
ひそめも魚やからく毛威よあゆてとの多も見  
眺

海ばすう遠きとてにけぬの尺やまき御の浦源

羈中川

手の名れ故ゆき御内遠くも生ぬ旅すれり

浦度

吹風も一づけき國と浦は春の立ぬ日とて

雪眺

立ぬの小くゆもけさハ望きて名城のせなる流の繁舟

行秋草中

旅人のうち此の立秋りもよひの御れ袖やア

涼歌

ひてふ君もひそめじよもうして腰の月よよゆき戸

新東洋へと事務の往来あつて此のま  
うは、此井宮の御事、水イ  
御より西もあれど、食ひ玉の井宮の水  
かくて御殿を多くあるの後よりいふ  
いふ事無くして御史院も六月終ふ

川原のにあきや坂も山なり、清瀬御宿と有り、船の多  
くやや坂のあれども、あくまで、水より、海の多

六月二日寅の朝より

此世の者のすゝみの事も、下すよつて御  
はくねあきかの例より

うめをくらむ月よりて、事務は多くかし氣れ

同へこうじ

足はれず、さう、さうといひ年より、御のこうじ  
何と思ひわれ、もと声の年よりあつて、それ故  
いける日から、御のまことに、今更、御も御じ  
うなむを、まいつの日から、御の御事

二七日又あ

ちひぬのこの、の、二、いつ、くへ、あとく

墓へ往く

辛とも、御のそくや、年の、年、もうの、年、年、年

と、年、年、年

アトリ日暮も、鷹の音を書く、焼の音をのねる

元禎曰先生喪弟、享保十三年ナリ先生友愛極至且第  
氏甚不慧ナリ衣食一丁ニ至迪先生コヒヨ揚ルコト篤實ナリ小俸  
三口ワツカニ養ニタル隱逸ノ志夙昔ヨリアリシ故ニ取女ラス第亡テ後  
常ニ云フ吾弟ヲミルコト先妣ヲ育スト思ヘリ今喪矣ストテ涙下リ  
キ。何十四年正月十七日下世禎カ先君子後事ヲ經紀メ  
禎ヲメソノ事ヲツカサトラシム十三年ノ歳暮ノ歌ニ春秋トサキ  
ケル花ニヌル蝶ノ子ヲラヌ夢ニクレシ一年何トヤランイニシキ休  
ニ覺キコレ其誠トナリタル欣

一延享五年戊辰三月十九日 敦隴ニ謁セシカ為ニ未明園山  
ノ都城ヲ発ス于時熊野木キヲ過ク是ハ津田左源太永忠カ  
岩石ヲ穴ニテ焼ヲ渠ニ通セル所ナリ举國慨難スル役ナリ寔ニ

非常ノ人ナリト思ハル人々皆云人カノ及ズキコトニ非ストミナ人コシシ  
レルトナレハ詳ニセス和氣ノワタリヲ越テ和氣ノ穴觀音ニ至ル絶壁ナ  
仅モアルラン其中石ノ洞アリ深キヲ八九尺ハカリハ六尺余石洞キ  
ハメテ潔白石乳流レ出テ白粉ヲスル如クナル所ウンアリ即筆  
ヲドリテ絶句一首ヲ石穴ニ題ス雨水イルヘキヤウナシ千秋ニ傳  
ヘキモノナリカクト知リタリセハ豫メ沈吟苦思メ作ルヘキヲ瞬目ノ間  
ニ醜熊アリ以今ミレハ後悔甚シモト石洞ノ中ニ觀音大士ノ像ア  
リシヲ和氣ノ寺ニサメタート云リ石洞ニイタル道甘心嶮ナシトモ屈  
曲シテ登ル櫻本ニ六株アリ高下ニ町余モメクリテ石洞ニイハレ  
タクヒナキ美觀ナリ石洞ヨリ見ヲロセハ和氣ワタリ水北ヨリ流レテ景  
モ惡カラス和氣ノワタリハ即吉井川ノ川上ニテ備藩ヲ大川ナリ

晩ニ尺新邑ニ宿ス主人ハ昂孫平熊澤大夫伯繼孫ナリワニ舊  
相識ニアラス使ヲハシラセテ宿セシユトヲ詣一孫平年六十六門外ニ出テ  
招テ入レタリ茅屋ナリ男女一人孫四人アリ伯夫十四才人モアルミ和氣  
海道ノカタハ賣物ノミセシ農屋孫平アリソノヨシナシタルアリ  
サヘ熊澤大夫ノ血脉慙ヘカラス裏ニ大成酒藏アリ富有タクヒ  
ニレナル人ナリ即置酒シテ一メヤカニト、メタリ明日キ日大ニ雨ル孫  
平雨ヲツイテ行シトヲ憂テシキリニト、メ朝炊ヲオワクシテサニ尋カ  
行シテララシムシヒテ謝シ云テ尺新邑ヲ出テ藤野驛ニ至ル寺アリ  
其寺ノ前ハ即平家物語ニミヘタル倉光ヲ瀬尾太郎カ計リノ拏ギリ  
寺ニ古文書モナシサテ御邑ヲ過テ和意谷ニ至ル溪水一帶流レ出  
ソレヲ左ニワタリ右ニワタルト十八度谷ニアリサヘ箱根山中ノ如レ工

キ二里日本道敷隴ノ下ノ門ニ至ル門ノ前ニ番所アリ左方谷ニ隔  
テ守墓ノ家アリ守墓ハ中小性富山市左エ門ナリ即其家ニ至リ礼服ヲシテ  
ノチ門ニ入ル門ヨリ第ニツノ山ニ至ル道屈曲シテノボル道ハ一間半  
余其真中ニ川ノ石ノフニ石ヲ八町カアイタナラヘタリ門ニ入リテ右方ニ  
烈公ノ御入りアリタル時ノ茶屋アリ 烈公寒中ニモ久シクオシタ  
焼火間モアリ浴屋モ有鹵薄ノ人數ノ居ルヘキ所厨僕從ノ浴屋  
ニテ悉備レリ家數十軒ナモアルヘシサテ次第ニス、ニ行道左右  
櫻ノ花多クアリ芳野ノ方モカクアルヘシト思ハルニシ散リノコリタ  
ル花モアリヤ、雨モハケシカラス既ニ第ニノ御山ニ至リテ  
烈公ノ隴ニ謁ス隴ノ前ニ木柵アリテ鎖スニ山ハ上ノ平ナル所三十間ハ  
カリモアルヘキ鎖ヲヒラカセテ内ニ入リテ白砂ノ上ニ拜伏畢テスニヨ

リテ内ノ石柵ノ所ニ伏テ窺ヒ奉ル方ニ丈高一丈モアルヘ  
馬鬣封アリ其前ニ碑アリ左ニ夫八ノ碑アリ馬鬣又同シ石  
柵碑ニ精ナリ石柵ノ側ニ神道碑アリ 烈公ノ碑夫人ノ碑  
トモ臺ノ石ト、セニ石ハヒト、ナリ「」如此ナシタリ袖追ノ碑ハ上ノ  
オホヒノ石モ下ノ臺ノ石トモニ石一つ也其カタキ凹如此セリコハ  
オホヒモ臺ノ石モ別ミシタルトハ大ニ費ナレトモタヤスクトリナ  
ラサスニシキ為ナリ俗ナル奢侈十九露ハカリモナシ唯手間ノ  
入タル千來ノ國ナラテハ決テナシ得カタキトナリ木柵内ニ  
高サ立尺八カリノ瓦ノ如キモノアリコハ御墓祭ノ時ノ入用ノ為ナリ  
木柵ヲ半ナルニト數十歩ニ府庫アリ 烈公ノ御物具ライレオカ  
タルトナリ 烈公ノ甲冑ノトハ前年詳ニキケリマニ記セス第三

ノ山ニ至 興國公ノ隕ナリ夫人神原氏ニ合葬サナリ碑馬鬣神道  
ノ碑石柵木柵瓦小屋皆同シ但シ地ノ平ナル所せシユハ地勢ニヨン  
リ石柵ノシカタ少ツ、違ヒアリ 烈公ノ石柵ノ外拜スル所ニ白砂ラシ  
ケリ 興國公ノ石柵ノ外ニハ青キ小石ヲシケリサテ第一ノ山ニ至ル  
柵石柵ミナ同シ 國清公ノ隕ナリ馬鬣又同シ碑ハ異ナリ  
龜趺アリ唐ノ禮ヲ用ラレタルト見エテ龜首高サ三尺少余アルヘシ  
龜首ハ西面向フ碑ノ高サ七尺余ハ、三尺ニキカク見エ碑首ニ天祿  
碑耶向アリテ立タル所ヨリタリ神道ノ碑東ノ方ニアリ合葬ナシ  
コハ故アルコトナルヘシ 大義夫人ハ狂疾ニヨツテ一度出サレタ  
ユナルヘシ國人共 国清公ノ隕ヲノ御山ト称シ奉リ  
興國公ノ隕ヲハニノ御山ト称シ奉リ 烈公ノ隕ヲハ三ノ御

山ト称シ奉ルサテ序四ノ山ニ至ル備後守恒元君ノ隴アリ傍ニ新八郎  
君ノ隴アリ其外第ニ山ト云皆上ノ平ナル所サス第ニ  
ノ山ハ八町カリアリ己ハ公族ノ墓アリ 國清公ノ一ノ御山ニ御  
山興國公ノ隴ニハ皆 父公ノナシタニヘル所ナリ三ノ山石碑等ハ  
曹源公先君ノ制ヲ承テ成、王ヘル刑ナリ烈公ノ一事モ礼ニヨラセタ  
テハヌコトナシト見エタリ日本ニテカルトヲ創メタフハ周公旦ノ礼ヲツク  
リ玉ヘルヨリモムツカシキトナルヘシカクテ山ヲ下リテ守墓ノ所ニカヘル既  
ハ半時ナリ是ヨリ閑谷ニ才モムク又働邑ニ下ルコノ時大雨イヨ、止ス  
溪水ヲワタルト十一ニシテ瀑布ヲミルコレ 烈公ノ神文臣ヲ寵メ雨  
水ニヨツテ歌ヲシメシタラヘシ并謁既ニヲハリ酒ヲ呑ヘシト云行厨  
杯ヲ出シテ溪上ニ立テ痛飲ス狂堯スルト甚シユレヨリ働邑ニ走

リテ閑谷ニク日暮ナシテ恐レテ道ヲイソク閑谷ニ至リテ驚愕甚シ  
外ノカニヒ野ツラノ石ヲモテ辟土ヲナセリ高サ六尺ハカリ根オキハ五尺  
モアルヘシ地ヘ入ルコト六尺ト云石ノ中ヲ千キリシメニシタリイカナル地震  
モウコカスヘカラストエリ屈曲メ山ヲメクレト幾千丈一イウヲ知ラス  
中ニ講堂アリ講堂ノ又クヒ板ハケヤキナリウスキ茶ヲヒキテハモヨク  
ヒテ又ウスキ茶ヲヒキテ色ヲナセリ瓦ハ伊部ニテヤカセタルトナリ瓦ノ下  
ニ銅ノトヒライテ其上ニカハラ敷タリカシノ木ヲケツリ瓦ノ裏ニツクヲ  
出シテ其木ヲイレヌリ伊部焼物ナルエ卫總朱色ナリギカクシ六金銀  
ノルイハ不可然トテウルシノスリ上テナリ講堂ノ左ニ大成殿アリ總  
テ俗ノ奢美華麗ナルコト少シモナシ筆ニモツクスヘカラス秦  
始皇漢武帝再生シ玉フモカールコトハヨモナシタニハシト思ハ但

孔子ノ像ハ鑄物ナリ大成殿ノ左ニ 芳烈祠アリコレモ

大成殿ト同シ 烈公ノ像モ鑄物ナリ 閑谷ノコト一事モ礼方  
ナヒタルコトナシ門ニハ学校ト云榜アリテシ諸侯ノ國ニニノ学校アル  
トイウト和漢古今ニカヤソノ礼アリヤコレ無礼之ヲナリ学校礼  
法所ナリ奢美トイウト禮法ニアルヘキヤコレ無礼ノニツナリ学八士  
君子イナリ深山ノ中ニ学校ヲツクルト何ノ用ソヤコレ其不知禮ヲ  
ナリスヘテノコト淳屠ノ法ヲナセリ像ヲイルノルイコレナリ不知禮ヲ  
ナリ 烈公即世後ヨノ大役アリ数億萬ノ金ヲ費セリ津田氏  
ノ狩ナセル所ナリ 烈公ノ神イカハカリナケキ玉フスキ其余無礼  
不法言語ニタエタリ孔子ニ諸侯ヲ配メ祭ルト何ノ礼ニヨレルヤ  
永忠思逆ノ跡實ニ百代ニコルヤキ物ト思ハル伊里中邑ニ

至ルスデニ日クレタリ行上ノ驛ニイタリ宿ス夜初更ニ過タリカ一日  
行上ヲ出テ歸路天瀧山ノ勝ヲミント欲シテ山ニ登ルト十八町西  
院ニ至ヨシハ住持ノ僧ワレニ詩ヲ詣タルユカリアリ即寺ニ入ル住寺  
ハ不在ニメ小僧吉ヲヒキテ名高キ瀑布ヲミセシム夫ヨリ熊山ニ  
ホル樵徑極テ峻蘿ヲ攀テス、ミ行コト幾盤トイウトラシス  
ヤフヤクニ熊山ノ本堂ニ至ル是太平記ニ見エタル兒鳥備後  
三郎高徳力旌ヲアケシ所即今ノ本堂ノ前ガ手負ニ所ナ  
鐘樓ノ西ノスニナル石即高徳力腰ヲ掛テ士卒ニ令セルト  
ナリ今モ高徳力腰カケ石ト云太平記ニ見エタリ南面ノ  
長坂トアルハコレ今仁王坂ト云地ナヘシユノ所少シ平ナリ軍ス  
ヘキ所ナリ熊山ノ本堂絶頂アリ北ハ伯耆ノ大山東八室津淡路

嶋東ハ大坂城西ハ備中悉ク日睫ノ中ニアリ極メ乞高山ナリ  
鐘樓ノ西ノスニ戒壇アリコレハ南都ノ招待寺筑紫ノ觀音寺  
関東藥師寺ノ戒壇ト同シ日本ニ四ツノモナリ石垣ヲ三階ニツキ  
アケタルモノナリ夫ヨリ坂根ニ至リ道四十五回嶮立シカ多ナシ一步ヲ  
矢スレハミナントナルヘキ所イク所トイウコトヲ知ス坂本ニ至リテ  
吉井川ノ舟ニ乗リ川ヲワタリ國山ニ歸ル初更ヲ過テ備レタル  
コト甚シ藤井驛ヨリ馬ニ枝ノセラレタリ其翌日二日援筆聊  
コレヲシルシ置ス

一又按スルニ國清公ノ碑制明法ニヨリタヘルト覚ユ唐ノ制ハ  
寒酸ナルユヘ成ヘシ○又平家物語ヲ按ルニ藤野ニテハ倉光カ  
丁ニヘス三石トアリ藤野ト云コトハ盛衰記ニ出タルカ○又按スルニ

太平記ニ熊山ノコトヲ云テ禁ハ少嶮ニ上ハ平ナリト云リ梵麗ヨリ  
山ノ七八分ニ至リテ險甚シ○又熊山ノ僧ノ曰歟山ニテ戒壇トハ  
少シク異ナリ熊山ノ戒壇南都筑紫關東ノ四所ハ戒壇ハ梵  
綱經ニヨツテ作ルナリトイヘリ又熊山ノ僧ノ曰是寺ノ創造タル  
丁ハ南都七大寺ヲタテラレタル 開基ナリ近頃松田カ乱  
ニ亡テ浮田家法華ヲ尚ヒシカハ寺ハナナリシ 寛文年中ニ再  
興セラレタルトイヘリ高山ナルユヘ寒、甚シク早損スルトイリ○又土  
肥典膳カ問ニ 大義夫人八中川氏ノ所ニテ長逝シ主フ良照  
翁主御女ハ京都妙心寺寺中良照院ニ葬レリコハ因幡侯  
ヨリトリ計ヒタル故 國清公ト合葬ナシ但シコト詳ニハ記スヘ  
カラス同二十日公族造酒ニ謁メ敷土山ノイヲ尚詳ニ聞ク

敦隴ノ外門ヨリ八町ノ坂ノ間フニ石三千七百余アリト云々

文會雜記附錄終

